

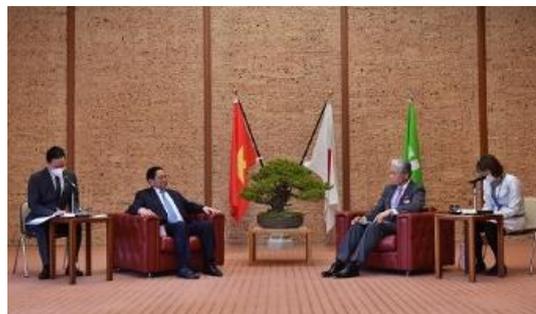
メルマガ「とちぎ通信」 2022年春号（第34号）

■ベトナム首相の来県

2021年11月23日、ベトナム社会主義共和国から、ファム・ミン・チン首相をはじめ政府高官等による訪問団が来県されました。前月の10月には「とちぎ型大使館外交」(※)の一環として、福田知事が駐日ベトナム大使館を訪問し、大使に本県のPRを行ったことがきっかけの一つとなり、チン首相の来県につながったものです。

会談や昼食会を行い交流を深めたほか、来県したベトナム企業と県内企業が参加する経済フォーラムを開催し、県産農産物や観光地、投資環境等の本県の魅力・実力をPRしました。また、日系企業が多数進出しているビンフック省と覚書を締結し、今後、経済分野等における交流の促進に努めることとしました。

(※)「とちぎ型大使館外交」…県産品・県産農産物の輸出拡大及びインバウンド誘客の促進を目的として、本国に影響力を有する駐日大使等に対し、福田知事が直接、本県の魅力・実力をPRする取組



▲(左) ファム・ミン・チン首相

■駐日ドイツ大使の来県

2022年1月27日、クレメンス・フォン・ゲツェ駐日ドイツ連邦共和国大使が、新任挨拶を兼ねた知事表敬及び地方視察の一環を目的に来県されました。本県とドイツの交流について福田知事と意見交換を行うとともに、栃木県農業大学校および県内企業を視察しました。栃木県農業大学校では、2021年に創設された全国初の「いちご学科」の説明や、高機能温室の視察、試食等を行いました。ゲツェ大使には、4種類のいちご（とちおとめ・スカイベリー・とちあいか・とちひめ）の食べ比べを楽しんでいただき、「いちご王国・栃木」をPRしました。



▲ビンフック省との覚書交換



▲(左から2番目) クレメンス・フォン・ゲツェ大使



▲経済フォーラムの様子



▲農業大学校視察（いちご栽培の説明）

■編集者の食べ歩き紹介

◇道の駅ましこの「とろたまブリュレ」



陶芸の益子焼で有名な益子町にある道の駅。ここでは、新鮮な農産物や加工品、工芸品などが販売されていますが、今回ご紹介するのは、道の駅ましこのオリジナルスイーツ「とろたまブリュレ」。益子産の良質な卵を贅沢に使用したクレームブリュレで、濃厚かつ滑らかな舌触りが特徴です。ブリュレとは、フランス語で「焦がした」という意味で、表面がキャラメリゼされているので、カリカリ、パリパリな食感も楽しめます。益子焼の小さな釜の器に入っており、見た目も可愛らしいです♪

で、カリカリ、パリパリな食感も楽しめます。益子焼の小さな釜の器に入っており、見た目も可愛らしいです♪



■県内における新型コロナウイルス感染症の現状

本県では、昨年末からオミクロン株への置き換わりが進み、1日あたりの新規感染者数が第5波のピーク時の約4倍を記録するなど、これまでにないスピードで第6波の感染が急拡大しました。このことから、1月27日～3月21日までの期間、県内全域が国の特措法に基づくまん延防止等重点措置区域となり、県民への基本的な感染対策の徹底や飲食店等への営業時間短縮等を要請しました。

新規感染者数は緩やかに減少していますが、現在においても高い水準が続いているため、引き続き緊張感をもって、感染防止対策を続けています。また、3月から各市町において、5歳から11歳までの小児向けワクチン接種が開始されました。とちぎびとの皆様におかれましても、引き続きご自愛ください。

<リンク先> 新型コロナウイルス感染症に関する情報

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/c05/kouhou/korona.html>



■ウクライナ避難民への支援

岸田首相が避難民受入れを表明したことを受け、本県では、県営住宅の提供や「とちぎ外国人サポートセンター」における相談窓口の設置などの支援を行うこととしました。また、ウクライナでの人道危機対応及びウクライナからの避難民を受け入れる周辺国等での救援活動を支援するため、県庁舎本館及

び（公財）栃木県国際交流協会に募金箱を設置し、日本赤十字社を通じて救援金を寄附する取組を行っています。

<リンク先>ウクライナ避難民への支援について

https://www.pref.tochigi.lg.jp/f04/houdou/2022_ukraine_sien1.html